

## コラム 「小学校での国際理解教育とは？～自分の一年の実践から～」 (教員向け)

総合的な学習の「国際理解」とは・・・分かっているようで分かってないのが、多くの教員の本音だと思います。自分もそんな思いを持つ教員でした。そもそも「国際理解」？それよりもこの業者テストを終わらせないと！ 英語の学習で国際理解でしょ？ そんな声も過去聞いたことがあります。

確かに「国際理解」の必要性を教師がどれくらい感じているかが、その一つの原動力でしょう。日々の詰まった教育課程の中では、そこに触手を伸ばすのはなかなか難しいのが現実です。

しかし今回自分が一年間、国際理解教育をクラスの子どもたちと学び、気がついた最大の収穫は・・・「他文化「を」学ぶのではなく、他文化「で」学べば、学級全体が非常に豊かになる」ということです。

クラスでの学びは、他国に興味を持ち調べるということから始まり、自分たちが学んだ「考え方や視点」を学校に発信するという方向に広がりました。そんな彼らがさまざまな題材から習得した「考え方や視点」は、学級での生活に大きな変化をもたらしました。

それは「自分と他者は違う、違うからこそ理解しあう努力をし、違うからこそ共に協働し、新しい価値をつくることができる。」という多文化共生の根本を理解し、伴う行動ができるようになってきたということです。

小学校の生活では日々、たくさんの意見や感覚の違いから衝突があります。しかし、そうした衝突なくして、互いの根本的理解など不可能です。そんな時、違いをあきらめたり、強引に意見を通すのではなく、とことん理解や納得解に向かおうとする学級になりました。

こうした学級づくりは、自分の長年の目標でしたが、今年の「国際理解教育」がその子ども達の成長を後押ししたことは間違ひありません。と同時に、私自身の教師としての視点や考え方、行動も多様にしてくれた実感もあります。

「国際理解教育」は、非常に幅広く、学び方もまた多様だと思いますが、是非多くの教師の皆さんに、挑戦してもらいたい題材だと思います。その挑戦は、子ども一人一人や学級、そして教師自身、さらには学校全体も巻き込めば、学校が豊かに変化します！ まずは何か一步、どうでしょう？